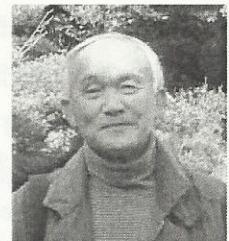


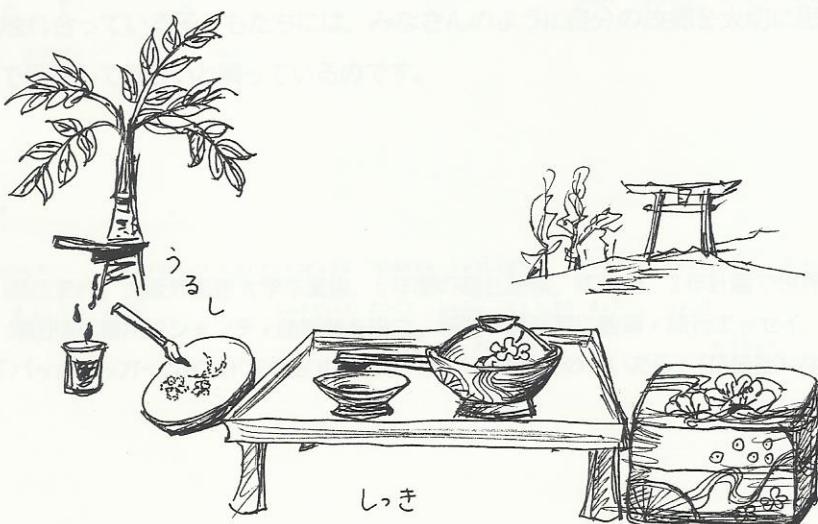
# 漆器 (japan)

もと こうこうこうちょう  
元・高校校長  
くすみ しゅうぞう  
楠見 修三



## にほんごくとく さんぶつ ①日本独特の産物

世界共通に食品を盛りつける食器にはいろいろな材質を使いますが、なかでも一番多いのが陶器・磁器、ガラスや金属がありますが、日本では、そのほかに木製の食器をたくさん使っていますが、そのほとんどが漆器です。英語では、磁器を *china* と呼ぶのに対して漆器を *japan* と呼ばれるように、日本独特の産物の漆器の最大の特色は、木が熱の不良導体で中のものがさめにくく、さらにふたがあれば、いっそう熱の拡散が防げます。さめにくいということは、漆自体ではなく、木の特質ですが、木はきじ生地だけでは汚れやすく、割れやすいので、漆を塗ることによって、その欠点を補っているのです。漆は、木質を保護し、同時に、独得の美しさもつくりだすために、かわかしては塗り、かわかしては塗るという作業を繰り返します。大変な手間をかけなければかけるほど、木はめたなことでは割れません。また、何度も塗り重ねをする漆器ですから、その上に絵や模様を描くのは自由にできますので、金・銀などで模様をつけた装飾性の強い食器がつくれられ、平安時代以来、日本人の食卓をかざってきました。この漆器の影響が、陶器にもおよんでいき、陶器の上に模様や図案をいろいろな色で塗りあげ、九谷、赤絵伊万里といわれる、非常にきれいな着物の図案のような装飾陶器をつくりました。



うるし きゅうせんねんまえ やじり こてい せっちゃんくさい つか  
なお漆は、九千年前にはすでに鏽などを固定する接着剤として使われ、また、うつわとして  
じょうもん じだい しよう あすか なら じたい だい じいん ぞうえい ぶつぞう ぶつく  
も縄文時代には使用されていました。飛鳥・奈良時代、大寺院の造営にともない仏像や仏具、  
ちゅうど ぬ せいこう うるしこう ぎ じゅつ ひろ けいじゅつてきかくちょう たか うるしこうげいひん かずおお  
調度などを塗る精巧な漆工技術が広まってきわめて芸術的格調の高い漆工芸品が数多くつくり  
きょうと きんかくじ たてもの きんばく は したじ うるし ぬ かさ うえ  
されました。また、京都の金閣寺の建物へ金箔を貼るにあたって下地に漆を塗り重ね、その上  
きんばく は ぎほう きょう にほん うるしこうげい でんとう みなも  
に金箔を貼っています。それらの技法は、今まで日本の漆工芸の伝統の源となっています。

## なんばんしつき ②南蛮漆器

せいき せいようじんごの なんばんしつき よ しき きょうせんきょうし  
16世紀には西洋人好みにデザインされた「南蛮漆器」と呼ばれる漆器が、キリスト教宣教師  
つう ゆしゅつ えど じだい はい ながさき でじま おお でじま しょくかんちうたち  
を通じてポルトガルに輸出され、江戸時代に入ると、長崎の出島からは、多くは出島の商館長達  
わきに しつこく どうめいかん も つや はだ きんざん まきえ らでん そうしょく ようひつ  
の脇荷として、漆黒に透明感を持った艶のある肌に金銀の蒔絵や螺鈿で装飾された洋櫃などの  
ちゅうど かく けいゆ たいりょう ゆ しゅつ  
調度や家具がオランダ経由で大量にヨーロッパに輸出されました。

## うるし ③漆

うるし おんど しつど うるし ふく せいぶん りょうかげん かわ じかん ちよせい  
漆には、温度や湿度、漆に含まれるそのほかの成分の量加減で、乾く時間を調整することが  
どくせい ひじょう びんかん すこ ちり ふじゅんぶつ ぶぶん きんしつ かわ  
できる特性があります。また、非常に敏感で少しの塵や不純物がついてもその部分が均質には乾  
せいしつ も さいだい とくちょう いったんかわ さん しあ ある かり でんき  
かない性質を持っています。そして最大の特徴は、一旦乾くと、酸、塩、アルカリや電気にもび  
くともしない強さにあります。漆器は、このような特性を持つ塗料であり接着剤である漆を使って、  
木・樹皮・竹・布・紙・金属・陶磁・皮革などの様々な素地を器胎として作られます。  
木のひ たけ 素の かみ きんぞく とうじ ひかく さまざま そじ きだい つく  
でんとうぶん か いちれい しょうかい ぶんか りかい たいけん くに まこと すかた かこ げん  
伝統文化の一例を紹介しましたが、文化を理解・体験することがその国の眞の姿を過去・現  
さい みらい み で き かんが しつき て かんしょく たの くだ  
在・未来にわたって見ることが出来るものと考えます。漆器を手にとって感触を楽しんで下さい。  
さいご げんさい だいひょうつき しつき しょうかい きょうしつき わじまぬり ひだ しゅんけい きしゅうしつき あいづぬり  
最後に現在の代表的な漆器を紹介します。京漆器、輪島塗、飛驒春慶、紀州漆器、会津塗、  
さんちゅうぬり  
山中塗などです。

## しつき くすみせんせい けいれき 漆器の楠見先生の経歴

わいかやまし しつしん  
和歌山市出身

あおかみ ふりつこうとうがっこうしゃかい か にほん しだんどう  
大阪府立高等学校日本史担当

あおかみ ふりつ こうとうがっこうちょう あおかみ ふりつ やよいふん か はくぶつかん なら せんもんいん  
大阪府立日根野高等学校長、大阪府立弥生文化博物館（教育専門員）をへて

げんざい わかやましかた いん  
現在 和歌山市語りクラブ員（ボランティア）

しゅみ し せきほうちん

趣味 史跡訪問